

沖縄・働く女性のための情報誌

# i-woman

Vol. 5  
580 YEN  
2010.11.27

沖縄働く女性の気になる!

# VOICE

30名の沖縄の働く女性たちが  
i-womanの質問に答えました!



女性が幸せでキレイに輝くためにはより良い環境作りが必要だと考えられます。ちょっと視点や考え方を変えるだけで幸せへと近づくことができるから、自分自身のカラダとココロに目を向け、人生を楽しみましょう。

このコーナーは、沖縄の働く女性の美意識を喚起し、幸せになるための方法を伝えるビューティーアドバイザー上地武氏をナビゲーターに、iivoman編集も一緒に、毎月ゲストをお招きして女性の生き方について対談していきます。

今回は番外編として、ビューティーではなく、「人との関わり方」、そして「子供の問題」など、2つのテーマを中心に株式会社カルティベート代表、そして県教育委員会委員長の開梨香氏をお招きして対談いたしました。

編集：開さんは地域づくりや人づくりを通して地域振興をお手伝いするというコンサル会社、「株式会社カルティベート」を経営されていますが、ご自分のお仕事や起業するまでの経緯を教えてください。

開：高校を卒業してから親元を離れたので、アルバイトをしてお金を貯めて、生活費と学費は自分で捻出していました。稼がなきゃいけない！という環境がまず前提にあったんですけど、でも、ただお金を稼ぐためだけに働きたくない。どうせなら、楽しいこと、興味のある事、勉強になることに喜びを感じるようなことをしたいという

厳しい環境でも耐えていける疲れつて大切なすよね。

う思いが強かったんです。そこで、大学でマスコミを専攻していた事もあり柳卓さんのアシスタントとしてテレビ局で採用されたのをきっかけに、元々興味があった企画、制作、プロデュースにも後々、携わっていくことができた。また、昔国際通りにあった「沖縄ジャンジャン」という劇場でも、舞台の作り方や演出を勉強し、たくて、集客のためのポスティング作業も含めて、当時290円というバイト料でも働いていました。当時週末は1回3万円の司会業をさせて頂き、主な収入はそこで稼ぎ、テレビ局のお仕事と沖縄ジャンジャンでのお仕事は勉強のためにやるというように、常に自分の好奇心と今後の活動の芽を数々のバイトの中で広げていきましたね。その後、音楽学校の企画の部署で仕事をさせてもらい、子どもたちのためのコンサートやミュージックキャンプという音楽合宿と交流イベントなどを自分でスポンサーを集めながら、企画・運営していました。

そして、インテリア会社の代表を経て、株式会社沖縄ノムラ代表取締役として文化施設や商業施設の展示・内装を手がけました。復帰20周年に首里城が復元されたときの展示工事をきっかけに、文化施設づくりが私の仕事

の中心になりました。県内のいろんな地域で、文化施設の展示計画や設計・施工をしているなかで、沖縄には多様な文化やすばらしい自然があるということを実感したんです。そして、沖縄の小さな島々の魅力に感動したんです。

私も含めて、みんなが沖縄の宝を知ることによって、大事にしようと思う心がさらに芽生えてきますよ。沖縄らしさをどのように残し、どのように活かしていくかを、本気で考え始めたんです。

そこで、40歳のときに、地域づくりや人づくりを通じて沖縄の活性化を応援するコンサル会社として、有限会社開を立ち上げました。現在の株式会社カルティベートです。今年で創業11年目になります。

これまでの人生を振り返ってみると、いろんな出会いがあり、本当にたくさんの方に助けて頂きました。その方々から受けたご恩を、どうやってお返しできるかと考え、後輩や子供たちに返していかうとしたんです。私が育ててもらったように、私も若手を育成しよう。そんな想いや活動が、教育委員に選んでいただくきっかけにもなったんだと思います。

編集：恩を返していくということについて、上地さんも出会いがあり美

事は女性のスタッフが多いのですが、そこをあえて叱って愛情をもって成長させていくこともあるんです。叱らないでやったら感じて欲しいところを何も感じとって欲しくない。また、叱らないで育った子達が僕らのような上司の立場になっても逆の後輩を育てることもできないんですよ。

開：厳しい環境でも耐えていける力って大切ですよ。叱られると、泣きもするし、悔しい。でも、踏ん張ったり、頑張る力も育っていく。時には理不尽な事もありながら、それを自分の中で消化していく力をつけていくうちに、自分はどうな風に仕事をしたいのか、どんな人間関係を築きたいのか、どんな人間と学んでいくんだと思うんです。

ビューティーアドバイザー 上地 武

一人一人をキレイにすることで幸せにしていけたらいいな...



県内人気ヘアサロンDejavu・Coucou代表。長年の美容師生活を通して広く社会に伝えたいメッセージを一冊にまとめた『ちゃ〜笑いですか』は、多くの人の心に響く話題作となり各メディアでも取り上げられ、その後青少年育成のためのボランティアとして教育機関などで講話会を行なう。

容の世界に導かれたようですが。そういう出会いはやはり大切なんですよ。

上地：チャンスっていろいろあると思うんだけど、通りすぎていくものもいっぱいあるんですよ。それを気づけること自体がそうないことだと思うんです。タイミングもありますよ。それを逃したらきつと今の自分はないし、美容の仕事はやってないと思う。元々、メイクが好きで、メイク屋さんになりたいと思ってたので、美容の仕事は自分でも驚きなんです。いっぱい怒られ、ボロクソに言われて、それでも人に役立つことをやりたいと思うのは、やっぱり大人になってからじゃないと分からないですよ。その時は、時間に任せるような感じがむしろ頑張っていました。

開：叱られるって大事！叱られることによって最近少なくなってきたけれど、必要ですよ。テレビに出ていたということもあって、チャホヤされて、浮き足だつてきたことがあったんです。そうすると大切なことや物事の本質が見えなくなってしまうんです。ある時、「これは怖い！」と思いました。一般的に、大学までは女性のほうが優秀、ところが、社会人になるといつの間にか男性のほうが仕事ができるようになっていくんですよ。

昔の話ですが、私の若い頃、テレビに出ていたということもあって、チャホヤされて、浮き足だつてきたことがあったんです。そうすると大切なことや物事の本質が見えなくなってしまうんです。ある時、「これは怖い！」と思いました。一般的に、大学までは女性のほうが優秀、ところが、社会人になるといつの間にか男性のほうが仕事ができるようになっていくんですよ。

開：叱られるって大事！叱られることによって最近少なくなってきたけれど、必要ですよ。テレビに出ていたということもあって、チャホヤされて、浮き足だつてきたことがあったんです。そうすると大切なことや物事の本質が見えなくなってしまうんです。ある時、「これは怖い！」と思いました。一般的に、大学までは女性のほうが優秀、ところが、社会人になるといつの間にか男性のほうが仕事ができるようになっていくんですよ。

開：叱られるって大事！叱られることによって最近少なくなってきたけれど、必要ですよ。テレビに出ていたということもあって、チャホヤされて、浮き足だつてきたことがあったんです。そうすると大切なことや物事の本質が見えなくなってしまうんです。ある時、「これは怖い！」と思いました。一般的に、大学までは女性のほうが優秀、ところが、社会人になるといつの間にか男性のほうが仕事ができるようになっていくんですよ。

●状況をプラスに転換する人との関わり合い。

開：私はコピーやお茶くみも率先してやっていたんですが、コピーのとり方も叱られることがあって、コピーやお茶を入れることによって、みんなと仲良くなりました。お砂糖の量など好みも覚えて持っていくと、みんな笑顔で「ありがたう」って応えてくれるんです。そりゃうれいんですよ。それがエネルギーになって、また「やるぞー」って思う。そのうちみんなが仕事や人生について教えてくれたり、アルバイトの場を提供してくれたり、時にはご馳走してくれたりですとか（笑）「やりたくないな」とかマイナスに考えがちな

開：私もコピーやお茶くみも率先してやっていたんですが、コピーのとり方も叱られることがあって、コピーやお茶を入れることによって、みんなと仲良くなりました。お砂糖の量など好みも覚えて持っていくと、みんな笑顔で「ありがたう」って応えてくれるんです。そりゃうれいんですよ。それがエネルギーになって、また「やるぞー」って思う。そのうちみんなが仕事や人生について教えてくれたり、アルバイトの場を提供してくれたり、時にはご馳走してくれたりですとか（笑）「やりたくないな」とかマイナスに考えがちな

開：私もコピーやお茶くみも率先してやっていたんですが、コピーのとり方も叱られることがあって、コピーやお茶を入れることによって、みんなと仲良くなりました。お砂糖の量など好みも覚えて持っていくと、みんな笑顔で「ありがたう」って応えてくれるんです。そりゃうれいんですよ。それがエネルギーになって、また「やるぞー」って思う。そのうちみんなが仕事や人生について教えてくれたり、アルバイトの場を提供してくれたり、時にはご馳走してくれたりですとか（笑）「やりたくないな」とかマイナスに考えがちな

開：私もコピーやお茶くみも率先してやっていたんですが、コピーのとり方も叱られることがあって、コピーやお茶を入れることによって、みんなと仲良くなりました。お砂糖の量など好みも覚えて持っていくと、みんな笑顔で「ありがたう」って応えてくれるんです。そりゃうれいんですよ。それがエネルギーになって、また「やるぞー」って思う。そのうちみんなが仕事や人生について教えてくれたり、アルバイトの場を提供してくれたり、時にはご馳走してくれたりですとか（笑）「やりたくないな」とかマイナスに考えがちな

開：私もコピーやお茶くみも率先してやっていたんですが、コピーのとり方も叱られることがあって、コピーやお茶を入れることによって、みんなと仲良くなりました。お砂糖の量など好みも覚えて持っていくと、みんな笑顔で「ありがたう」って応えてくれるんです。そりゃうれいんですよ。それがエネルギーになって、また「やるぞー」って思う。そのうちみんなが仕事や人生について教えてくれたり、アルバイトの場を提供してくれたり、時にはご馳走してくれたりですとか（笑）「やりたくないな」とかマイナスに考えがちな

開：私もコピーやお茶くみも率先してやっていたんですが、コピーのとり方も叱られることがあって、コピーやお茶を入れることによって、みんなと仲良くなりました。お砂糖の量など好みも覚えて持っていくと、みんな笑顔で「ありがたう」って応えてくれるんです。そりゃうれいんですよ。それがエネルギーになって、また「やるぞー」って思う。そのうちみんなが仕事や人生について教えてくれたり、アルバイトの場を提供してくれたり、時にはご馳走してくれたりですとか（笑）「やりたくないな」とかマイナスに考えがちな

開：私もコピーやお茶くみも率先してやっていたんですが、コピーのとり方も叱られることがあって、コピーやお茶を入れることによって、みんなと仲良くなりました。お砂糖の量など好みも覚えて持っていくと、みんな笑顔で「ありがたう」って応えてくれるんです。そりゃうれいんですよ。それがエネルギーになって、また「やるぞー」って思う。そのうちみんなが仕事や人生について教えてくれたり、アルバイトの場を提供してくれたり、時にはご馳走してくれたりですとか（笑）「やりたくないな」とかマイナスに考えがちな

開 梨香 (本名/比嘉 梨香) 琉球大学法文学部社会学科卒。インテリア会社代表を経て、株式会社沖縄ノムラ代表取締役として、文化施設や商業施設の展示・内装を手がける。1999年NPO法人日本エコリズム協会設立に参画。県内における普及・啓蒙活動をきっかけに、コンサルティング会社を設立。体験・交流型観光の推進や、特産品開発、人材育成に携わる。イベント・コンベンションの実績も多い。



Hiraki rika



Dejavu・Coucou代表 ビューティーアドバイザー 上地 武

株式会社カルティベート代表 県教育委員会 委員長 開 梨香







つも持っている、「ありがとう」が口ぐせになりますし、ありがたうと言なくなるような出来事が増えてきます。毎日の生活のなかにささやかなことに感謝できる感性が生まれると、喜びが増える。その体験の繰り返しですが、前向きな人生を作っていくと思えますね。

**上地**：こういうことで良いと思えるか、嫌と思ってしまうか。気持ち次第でだいぶ違ってくるよ。考え方でストレスもたまたまなくなるし。

●教育現場で叱れなさんか  
厳しい現実

**編集**：叱られるということは良い事という話の中で、最近では学校でも生徒を叱ることが難しい現実があると思わんですが、だからといって家庭で親御さんが子供に対して叱ること、これが今はできているのか？  
家庭と学校、どちらの環境も今の子供にとって良い環境かどうか見えてこないんですけど、その辺りはどう考えますか？  
**開**：今は、モンスターペアレンツが社会問題にもなっていますが、昔と違って、先生が生徒を叱ることがむしろ少なくなっていますよね。そういった中で、先生方の精神疾患も増えています。

ます。叱ると子供たちは反抗し、親御さんからはクレームが出るようになってくると、叱れないですよ。

●第三者の存在や言葉が重要

**編集**：最近では子供に対してアディティブができる大人が少ないような気がしています。それは、大人自体が怖がっているのが言えない、発言できないという状況です。現在、上地さんがやっている中学や施設での講話活動がそれを補っているように感じますが、実際調和を行うことで、気づくことってありますか？  
**上地**：子供達って第三者から伝えられることはよく聞いて受け入れるらんですよ。先生や親が言うことに対しては「また同じことを言ってる」「うるさいな」という感じで聞き流したりしますが、それを違う大人が言うのと聞かざらぬんです。普段、親や先生が言っている事と同じことを第三者が言う事で、「親や先生が言っていた事は正しかったんだ」とそこで再認識したりするようなんです。そういうことは聞いてくれることってよくありますよね。親や上司がいうことも必要ですが、第三者の存在って重要なことかもしれないとその時に感じました。

●島の民泊事業を通じて気づく心  
持つてほしい

**開**：沖縄の人の「チムグクル」はまだ残っています。特に離島では共同体がまだしっかり機能していて、地域で子どもたちを育てています。実は、今年度から3年間の事業で、那覇市の小学校5・6年生を離島につれて行って、島の民家などに泊まり、島の農業や暮らし、自然を体験する事業が始まります。那覇など都市部では、片親世帯で、親戚も周りにいないために、孤食をしている児童がたくさんいます。夜、ひとりうちにいると寂しいからお友達と遊びに行くという状況がとても多い。

例えば他社の経営者がうちのスタッフに指導する事はとても勉強になるんです。僕と同じことを他の社長さんが伝えると、「今までオーナーの言っていることは正しいんだ」と再認識するらしんですよ（笑）。  
**開**：身近な人の言うことはなかなか素直に聞けなくて、「また同じことを言っている」「みたいな。でも他の人の言うことや注意などは聞ける。それを、今の学校教育の現場に置き換えると、学校や教師だけではなかなか指導できないことが沢山あります。そこで、大学生やボランティア、ご近所のいろんな職業を持った方たちがその専門の知識を通して関わったりするのが望ましいと思います。社会の人たちが関わり合いの中で学ぶと、気づきや理解が得やすいこともあると思います。そういうような地域と連携した学校づくりが必要になってくると思うんです。

また生活保護受給者や、給食費などの就学援助を受けている家庭も増えています。こういった環境の中で、子供達は基本的な生活習慣や、社会のルールやマナーを学ぶ機会が少なくなっています。そういったことから、子どもたちが離島で自然・文化・生活を体験し、島の子どもたちや大人と交流する事業を通して、どっぶり人の暖かさに触れること、時には叱られたり、しつけられることで、子供達が何かに気づくことができればいいなと思っています。

たかが泊でと思われれるかもしれませませんが、きっかけというのは瞬間なので、それに気づくことが大事なんです。人と関わることの喜び、自然と触れ合う喜び、働くことの喜び、そういった気づきですが、その後人生に影響していくはずです。大人がつかれるのはきつかけや場だけですから、子どもたち自身が自ら好奇心をもって前向きに歩いていく力のきつかけなってくれればいいなと思っています。

沖縄には、「ゆいまーる精神」という、助け合いの心が元々あります。お互いが助けあって、子どもたちもいっしょに育てる、そういう環境が復活してくれば沖縄の子どもたちはよくなると思うんです。今ならまだ間にあうはずです。

**編集**：今ならまだ間に合うんですね！  
**上地**：民泊はうちの子供にも行かせるんですよ。ただ、自分達としてはただの修学旅行のような感じでお金を出して、そういう体験ができるなら行つたらいいんじゃないかというような感覚で受けてしまっているんですけど、開さんの言うような、この民泊事業をする上での本来の大切な理由があることは、実際行かせる親の立場としても知らなかったですね。もちろん発信しているんだと思いますが、学校側もきちんとした情報を知らせる機会を与えて欲しいと思いました。

教育長です。教育長は教育委員会の委員でもあります。  
●開かれた組織へと始動  
**開**：教育現場が抱えるいじめや非行、学力低下等さまざまな問題は、デスクに座って報告を聞くだけでは、実態が見えませぬ。実際に現場を向きき目で見、耳で聞き、肌で感じるのが大切だと思います。そして、現場の生の声や県民の声を受けて、大所高所から議論し検討し、教育行政の中に反映させていくことが委員会の役割だと思っています。また、「顔が見える教育委員会」になることで、関係者の連携や改善に向けた話し合い、実践の「場」づくりの芽だしをしていきたいんです。

**編集**：こういったアクションの提案は開さんがされるんですか？  
**開**：教育委員会は合議制なので、一人で決めて指示を出すということではなく、みんなで話し合っていて決めています。そのためには話し合いや勉強の時間、視察や外部との意見交換の時間が必要なので、週1回以上活動しています。

**上地**：開さんのお話を聞いて、これからは益々良い方向に進みそうぞう期待が膨らみます。  
**開**：教育委員会は教育行政の個々の分野や事業に関わるのではなく、意思決定機関として、学校の統廃合や教育行政上の規則の改正、人事など、重要な事項を会議に諮って合議で決定していくことが、一番の役割です。そのうえで、教育長が統括する事務局を指揮監督する役割もあるわけですから、どんな風にしたら、子どもたちの健全育成が図れるのか、どうしたら学力が向上するのかなどを、検討し、意見を言うことも大切。行政職である教育長を除いては、教育委員は

常勤ではありません。\*レイマンコントロールという、現在教育行政のプロではない人が委員です。医師、大学教授、経営者、PTAの代表など、各々専門分野を持っていきますから、その視点からの意見や、教育現場の外にいるからこそ気づけることもあると思うんです。しかし、教育委員会が何をやっているのかわかかなか伝わりにくいんです。  
**編集**：そういうえば、最近法律が改正されて教育委員会が変わってきたと聞いたことがありますよ。

●教育委員会の活動が県民に与える影響  
**編集**：そういう専門知識のある民間人で構成されている教育委員会ですが、そこが変わっていくということは、沖縄全体にどう影響してくると思いますか？  
**開**：同じ環境の中だと当たり前になつて見えなくなるものがありますよね。それが組織だったら、その組織内の常識だとか通例で動いていくから、一人ひとりが一生懸命やっていると、改善することが難しいこともあります。そこで、私たちが外部の人間で、専門分野を持った民間人で構成された教育委員会が教育行政を指揮監督することは意味を持つてくると思います。実際に現場を動かすことはできませんから、今、できるだけ新しい風を吹込むようにしているところです。教育委員会のレイマンコントロールというのは、外部の人間が「これおかしんじゃない？」おかしんじゃない？」と指摘することができるところにあると思うんです。課題を投げかけ、議論や提案をすることができるわけです。教育委員会は合議で物事を決めますから、「みんなでこうしてこう！」と目標に向かって動くこともできるんです。

こうして、教育委員会の役割を多



そういう意味で、僕以外にも分らない人が他にもいっぱいいると思うんです。

**編集**：先ほども出ましたが、情報を知らせることや公開することについて、開さんの教育委員会という立場では、そういったシステムは作れないのかと思えますがその辺りはどうなんですか？

**開**：そうですね。まずは沖縄県教育委員会という組織の説明をさせていただきます。県教育委員会は県知事が議会の同意を得て任命する教育委員6人で構成されています。教育委員会は合議制となっていて、教育委員会の指揮・監督の下に、事務局を担う行政組織として県教育庁が置かれています。教育庁には、例えば県立学校教育課や保健体育課などの部署があります。その中の義務教育課の下に国頭や八重山など6つの教育事務所があり、各々管内の市町村教育委員会を取りまとめています。市町村教育委員会と県の教育委員会は対等な関係で、上下関係はなく役割が違ふんです。幼稚園・小学校・中学校は市町村教育委員会の管轄になります。教育委員会事務局のトップは、

常勤ではありません。\*レイマンコントロールとは直訳するとレーマンは素人。但し、ここのように素人とは、教育行政の専門科ではないという意味である。





くの県民に理解して頂くことで、教育委員の人選にも関心を持ってもらって、自分の労力や時間を惜しまず、子どもたちや県民のために仕事をしてくれるパワーのある人が委員に選ばれるように、働きかけることも必要かもしれませんね。

**編集**：教育委員会というのはそういうものなんですか。知らなかったです。開さんみたいな人が6名いたらもうすごいんじゃないですか(笑)。

**上地**：事務屋さん(事務局)はそういう方がやられているんですか？

**開**：教員として採用され、学校現場から教年単位で教育行政に携わる人と、教育行政の専門職として採用されて、教育庁や教育機関で仕事をされる人がいます。

**開**：さまざまな機関と積極的に連携しようという目標を決めて、意見交換会を実施していますので、まずは、それを達成したいですね。たとえば、市町村の教育委員会とは教育事務所のみなさんと意見交換を始めていますが、6事務所中、毎年5つは意見交換会をしようという動いています。その他、公安委員会や知事との意見交換会の開催もそうです。そうすると、いろんな課題が見えてくるし、みんなが顔を合わせて話をすれば連携しやすくなるんじゃないかなと思います。ですから、知事には予算をお願いしたいかなと思います。

**開**：それを実行していきたいですね。意見交換会に教育庁事務局担当者を変えることによって、改善にむけた取り組みも具体的に進みやすくなりますので、担当課を席巻してもらおう

ことも始めました。この動きが来年も続いていくように、繋げていきたいと思えます。

**上地**：1回で終わるのではなくて、次に繋げることは大事ですね。こういった開さんたちの活動は素晴らしいと思えますよ。

**開**：関わろうとしない理由ってなんだと思いませんか？

**上地**：家庭の中で子供が物心がついていけば、手を取り合っただけでいいと思うんです。それに関わろうとしない理由がいろいろあるんじゃないかなという理由をきちんと教えてないような気がしますね。それは教育の問題だと思えます。

**開**：それは家庭の中で自然に学ぶものかなと思っていました。親が忙しすぎてかまう事ができないからゲームでもさせとけばいいとか、テレビ観せとけば、というような感じで手が離れてしまっている現状があります。

**開**：人と触れ合う喜び、自然や物または本との出会いから感じる喜びを知らない。なんだか抜け殻のようなイメージがありますが、そういう喜びの心を感じる感性が薄れているように感じます。

びの心を感じる感性が薄れているのは寂しいですね。

**開**：好奇心や関心を持って物を見ていないと心は動かないですね。あるいは、動かないと実感が無い。喜びもない。そうすることによってさまざまな情報がインプットされ経験知が蓄積されると思うのですが、それが無いと何か物事をしようとするときに、何をしたいのかどうしていいのかわからないという状況に陥ってしまうのだと思います。もちろん、やる気や元気もなくなってしまいますよ。人って、自分が意識したモノしか見えない、見たいモノしか見ないのかも知れません。だから好奇心を持ってないと、それに対する喜びを知ってないと、素敵なモノが目の前に溢れている自分が自分のところに来ようが全気づかず、反応しなくなっちゃうんでしょ。

**開**：戦後の苦しかった時代、みんな生きるが大変だったと思うんです。そういった中で親が子供に手をかけられていたかという、そうではなかったと思うんですね。だけど子供は親を見て、たくましく育っていった。今は親が子供に与えすぎてしまっていて、甘やかしてしまっているように感じます。

**開**：それが免疫もなくなってくると思うんです。ほんとにもう温室育ちですね。弱い植物のようになってくると思うんです。では、どうしたらいいと思いますか？

**開**：子供は責任ではないですよ！

分です。自分の心の持ち方ひとつで人生は楽しくも苦しくもなるものだと思います。いつでも自分が幸せだと思える心の持ち方を、私自身もいろんな出会いの中で、学んできました。人生どう転んでも大丈夫と思えるようになりまし。その基本は、「感謝」です。感謝する心の延長線上に必ず幸せがありますよ。

**上地**：僕もそう思います。気持ち一つで全て変わると思っていますよ。

**上地**：僕もそう思います。気持ち一つで全て変わると思っていますよ。

**上地**：僕もそう思います。気持ち一つで全て変わると思っていますよ。

**上地**：僕もそう思います。気持ち一つで全て変わると思っていますよ。

これはそういう状況を生んだ大人の責任です。甘やかす家庭が増えたり、子育てを放棄していたりと、極端な例も多くなっています。

**開**：大人一人ひとりが意識した行動と責任感をもつべきですね。

**開**：気づいた大人から連携して、その輪を広げていくことが求められていると思います。それにも情報発信がとて大事だと思えます。いかにしてみんなに知ってもらおうか。人が動くのは人から伝わった情報によることが多いので、人海戦術がいいですね。そういった人や地域との繋がりを作るには、中心となる人がいて、活動の輪をつくるのが、地道だけど一番正道ではないでしょうか。

**開**：気づいた大人から連携して、その輪を広げていくことが求められていると思います。それにも情報発信がとて大事だと思えます。いかにしてみんなに知ってもらおうか。人が動くのは人から伝わった情報によることが多いので、人海戦術がいいですね。そういった人や地域との繋がりを作るには、中心となる人がいて、活動の輪をつくるのが、地道だけど一番正道ではないでしょうか。

**開**：気づいた大人から連携して、その輪を広げていくことが求められていると思います。それにも情報発信がとて大事だと思えます。いかにしてみんなに知ってもらおうか。人が動くのは人から伝わった情報によることが多いので、人海戦術がいいですね。そういった人や地域との繋がりを作るには、中心となる人がいて、活動の輪をつくるのが、地道だけど一番正道ではないでしょうか。

教育委員会や教育庁のシステムもなんとなく理解できたので、僕自身の考え方もすごく変わってきました。僕は自分なりにもっと作戦を考えて自分は何ができるのか考えてみたいと思えます。勉強になりました。

**開**：上地さんのようにさまざまな職業の方が教育をもっとよくしているという意識し、活動してくださることが、今、とても必要です。これからひよろしくお願います。

**開**：自分なりの作戦と先ほど上地さんがいいましたが、それが活動の芽となり、またそういう活動を開さんみみたいな方がさらに広げていくという感じですね。開さんのような方が教育委員長をされてい事を知って、子供を持つ親としても嬉しく思えます。教育委員会へはさまざまな先人観があったので、今日は私も勉強できたので良かったです。

**開**：役割を与えたり、場を与える子供は一生懸命がんばるじゃないですか。教育委員も同じです。教育委員会に対してみんなが期待したり、応援したり、あるいは注文をつけるのもっと活性化して、働きますよ(笑)。

**開**：そうですね。人間は無視されると、存在そのものを否定されたような気分になる。そうすると生きる力が無くなっていくんですね。そういう意味で、昔、村八分が一番の罰でしたよね。その人の存在を否定すること。それ以上に辛いことはないです。

愛の反対が無関心なら、無関心の反対は関心。だから関心を向けることが愛を向けることでもあるんですね。

**開**：おもしろいですね。分りやすいです。

**開**：みんなが関心をもって子供を見ていく、みんなが関心をもって教育行政を見ていくことが必要です。それが、学校や教育を良くしていくことに繋がるはずですよ。

**開**：教育委員会のホームページに県民の教育に関する投稿ができるようになれば、ダイレクトに伝えられるので良いのかなと思うんですけど。

**開**：そうですね。でも、Webは顔が見えないので無責任に文句を言うことだけを目的として書き込まれる場合もありますから、それを管理するのはとても大変です。本当に愛情と想いをもって意見している人の声を拾うにはどうすればというのが、難しいですね。知恵の出どころです。楽な方法が必ずしも良い方法にならないんです。

最後に二人から「Woman」の読者に一言づつお願いします。

**開**：結婚して妻になって、出産して母になって。女性って、男性にはできない経験や顔をもつことができません。だから、楽しみもそれだけ大きく味わえるということじゃないかしら。苦しいことがない人はいないです。苦しいことも多いけれど、子育ては、苦しいことも多いけれど、それ以上に喜びも多い。自分の心が、何を幸せと感じるのかです。幸せも不幸も、すべて自分の心が決まっています。誰でもないんですね。世の中が悪いとか、学校が悪いとか、夫が、上司上司がと、誰かや何かのせいにするのは簡単ですが、結局はすべて自

